

先の巡礼・5 と 6 と 7 では、交響曲の世界へ寄り道をしたり、またその戻り先を間違えたりと、まるでわが人生の如く彷徨ってばかりいましたが、今回から正規のケツヘル番号順にモーツァルトの世界を巡礼いたします。

最初の K. 176 は、16 の舞踏用メヌエット です。1773 年 12 月にザルツブルクで作曲されたもので、オーボエとホルン各 2 本にヴィオラを除くヴァイオリン 2 部、チェロ・バスは、共通しているが、曲によってファゴット、フルートが加えられています。各曲は 1~3 分の短いものですが、全 16 曲合わせると 30 分以上かかります。

K. 177 は、現在ではレオポルドの作とされており、この CD 全集にも収録されていません。

K. 178 は、アリア「ああ、明かしたまえ、おお神よ」で、ピアノ伴奏によるソプラノのアリアです。現在では、1783 年の作で K. 417e と訂正されており、さらに管弦楽伴奏つきの K. 418 のアリアに書き換えたものです。

K. 179 は、12 のピアノ変奏曲 ハ長調 で、1774 年の夏に、ミュンヘンへの旅に備えて作曲されたと思われています。主題は、フライブルク生まれのオーボエ奏者 ヨハン・クリスティアン・フィッシャーのオーボエ協奏曲の終楽章からとられたものです。華やかさにあふれ、各地の宮廷で演奏されたようです。

K. 180 は、6 つの変奏曲 ト長調 で、サリエリのオペラ「ヴェネチアの大市」の中のアリア「わがいとしのドネ」から、主題は取られています。1773 年の秋にウィーンで作曲されました。

K. 181, 182, 183, 184 は、それぞれ交響曲 第 23, 24, 25, 26 番ですので、既述。

K. 185 は、セレナーデ 第 3 番 ニ長調です。1773 年 7~8 月にザルツブルクで作曲・初演された、7 楽章よりなる、40 分余りの大曲です。オーボエ・ホルン・トランペット各 2 本と弦 5 部で演奏されます。当地の宮廷陸軍参事官で州知事であったアントレッターの祝事のために書かれた言われ、「アントレッター・セレナーデ」と呼ばれることもあります。

K. 186 は、ディヴェルティメント 第 4 番 変ロ長調です。1773 年 3 月にミラノで作曲されました。娯楽用の木管十重奏曲（オーボエ・クラリネット・イングリッシュホルン・ホルン・ファゴット各 2 本）ですが、ファゴットだけは一つの声部を 2 本で二重に演奏しており、9 声で、書かれています。演奏時間 10 分余りの木管の流れるような響きが魅力的な軽快な作品です。

K. 187 は、ディヴェルティメント 第 5 番 ハ長調 ですが、大部分が父レオポルドの写本に残っていたものを K. 187 としたのですが、大半はモーツァルトの作品でないことが判明しており、この CD 全集にも含まれていません。



K. 188 は、ディヴェルティメント 第 6 番 ハ長調 です。この曲は野外での演奏用に 1776 年初めに作曲されたもので、フルート 2、トランペット 5、ティンパニ 4 という、特殊な編成です。ザルツブルクの乗馬学校の馬のパレードのために作曲されたものと推測されています。それぞれ 1 分前後の短い 6 曲よりできています。(左の写真は、かつて乗馬学校があったところで、現在はザルツブルク音楽祭会場になっています。)

K. 189 は、行進曲 ニ長調 で、1773 年 7 月か 8 月にウィーンで作曲されました。前述の K. 185 のニ長調セレナーデの前奏曲として演奏するためのものと思われる。

K. 190 は、2 つのヴァイオリンのためのコンチェルトーネ ハ長調 です。1774 年 5 月末にザルツブルクで

作曲されたもので、本格的な協奏曲としてはモーツァルト最初の作品です。

K. 191 は、ファゴット協奏曲 変ロ長調 です。モーツァルト初めての管楽器のための協奏曲で、アレグロ、アンダンテ マ アダージョ、ロンド形式のメヌエットの3楽章よりできており、全体で20分程度かかります。この曲が作られたのはイタリア旅行（1772年10月～73年3月）そしてウィーン旅行（1773年7月～12月）から帰郷した時期であり、旅先で受けた刺激・様式を随所に取り入れているといわれています。第2楽章冒頭のメロディーは8歳のときのノート（K. 15mm）に見られ、さらに後に『フィガロ』の中の「愛の神よ」となって再現されます。フィナーレのロンド形式のメヌエットはヨハン・クリスチャン・バッハをまねたものとも言われていますが、独奏ファゴットに手の込んだ変奏を次々と与えることで、この楽器の様々な側面を浮き彫りにする工夫もされています。ファゴットのための協奏曲としては、唯一無二の傑作と思います

K. 192 は、ミサ曲 第6番 へ長調 「小クレド・ミサ」で、キリエ、グロリア、クレド、サンクトゥス、ベネディクトゥス、アニュス・デイの6曲よりなり、ソプラノ、アルト、テノール、バスの独唱と、合唱と室内合奏で演奏されます。1774年6月24日 ザルツブルクで作曲されました。演奏時間は20分前後です。簡略な楽器編成と、切り詰めた内容で密度の高い作品（アーベルトによれば、モーツァルトの初期教会音楽の最高峰）として有名です。

K. 193 は、ディクシットとマニフィカート へ長調 で、モーツァルトは「ヴェスペレ」と呼ばれる6つの章から成る「夕方の礼拝（晩課）」を2曲（K. 321、K. 339）を書いています。もう一つ、その開始曲（Dixit 主は言われる Allegro へ長調 4/4）と終曲（Magnificat 私の魂は主をあがめる Allegro へ長調 4/4）に音楽をつけたものを書き残しました。それがこの曲です。1774年7月 ザルツブルクで作曲されました。

K. 194 は、ミサ曲 第7番 ニ長調。1774年8月8日 ザルツブルクで作曲されました。相次いで作曲された2つのミサ・ブレヴィス（K. 192 と K. 194）の一つ。どちらも大司教の好みに合わせて極度に簡略化されて作られましたが、この曲では全章とも前奏なしにすぐ合唱が曲を始めます。K. 192 と同じように、キリエ、グロリア、クレド、サンクトゥス、ベネディクトゥス、アニュス・デイの6曲よりなります。

K. 195 は、リタニア（聖母マリアの祝日のために）の第3作。聖母マリアの祝日のためのものとしては「リタニア K. 109」について2作目。自筆譜には1774年4月とあるという。これら2つのリタニアは「ロレータのリタニア」と呼ばれることがあります。それは、聖母マリア巡礼の地（イタリア中部に位置する）ロレータ Loreto のサンタ・カーザ聖母教会の銘文がこの曲のテキストになっていることによります。彼は明らかに、歌詞の応答の繰り返しによる単調を避けるために、5つの楽章をコントラストのある書法を用いて、それぞれに異なった構造にしようとする配慮もしています。キリエと「聖母マリア、われらのために祈りたまえ」の楽章がソナタ形式になっているのはその表われで、「聖母マリア・・・」が交響曲の緩徐楽章だとすれば、キリエはその第1楽章のアレグロといった関係にあります。



K. 196 は、オペラ・ブッフア「偽の女庭師」です。1774年夏にミュンヘンの選挙候マキシミアン三世の注文で、1774年9月～翌年1月にかけて、ザルツブルクとミュンヘンで作曲されました。1775年1月13日、ミュンヘンで、初演されました。その後、歌手の病気などもあって、合計3回上演されるにとどまりました。3幕もので、序曲と28曲よりなるものの、有名なオペラ・ブッフアである、「フィガロの結婚」や「コジ・ファン・トゥッテ」と比べると、まだまだの完成度といえましょう。イタリア語の台本は、その後1780年にドイツ語に翻訳されて西南ドイツの各地で上演されました。

K. 197 は、タントゥム・エルゴ ニ長調 で、聖体降福式のためのモテットで、「それゆえ、これほどの秘跡を」という意味ですが、単に「大いなる秘跡」と呼ばれることが多いです。アインシュタインにより疑作とされるも、新全集では K. 142 とともに「レジナ・チェリ」K. 127 と同時期の真作とされました。オーケストラの編成は大規模で（ヴィオラ付き弦楽器、トランペット、ティンパニ）、そのためにこれらの曲はおそらく、聖体の祝日《聖霊降臨後第一主日後の木曜日》に荘厳な聖体行列が行われる、巡礼指定教会のために作曲されたのではないかと思います。作品がともに、簡潔で親しみやすいこともそれを物語っています。

K. 198 は、奉獻歌「主の御保護のもとに」へ長調です。第3版では K. 158b に置かれ、第6版では疑作の部 (Anh. C3. 08) にまわされましたが、最近になって自筆資料が見つかり、真作として新全集に収録されました。18 才の若いモーツァルトが書いたこの曲は「何とも美しく、優れた表現力に満ちて」おり、ド・ニはアインシュタインが「モーツァルトの作曲した別の聖母マリアのための曲 (『ロレータのリタニア』 K. 195 / 186b) で用いた『超現世的』という形容詞にふさわしい優美さと静けさをもっている。」と絶賛しています。

K. 199~K. 202 は、交響曲第 27 番~第 30 番で、巡礼-その 5 で、既述につき K. 203 に進みます。

K. 203 は、セレナーデ 第 4 番 二長調です。I : Andante maestoso - Allegro assai 二長調、II : Andante 変口長調、III : Menuetto へ長調、IV : Allegro 変口長調、V : Menuetto 二長調、VI : Andante ト長調、VII : Menuetto 二長調、VIII : Prestissimo 二長調 の 8 つの楽章より作られています。1774 年のフィナル・ムジークとして作られたと思われ、その年の 8 月、ザルツブルクの大学の終了式用にふさわしい、屋外で演奏される祝典向きの堂々たる作品です。この曲の動機について、モーツァルトの最初の伝記著者ニームチェクは「コロレド大司教の命名日のために書かれた」と述べていました。そのためこの曲は「コロレド・セレナード」と呼ばれることがあります。

K. 204 も セレナード で、第 5 番 二長調です。7 楽章 (I : Allegro assai 二長調、II : Andante moderato イ長調、III : Allegro イ長調、IV : Menuetto 二長調、V : Andante ト長調、VI : Menuetto 二長調、VII : Andantino grazioso - Allegro 二長調 変則的なロンド形式) で、できています。1775 年 8 月 5 日 ザルツブルクで、作曲され、前曲と同じようにザルツブルク大学の修了式のためのフィナル・ムジークと見られています。

K. 205 は、ディヴェルティメント 第 7 番 二長調です。I : Largo - Allegro 二長調 4/4 序奏つきソナタ形式、II : Menuetto 二長調 3/4 三部形式、III : Adagio イ長調 4/4 三部形式、IV : Menuetto 二長調 3/4 三部形式、V : Presto 二長調 2/4 ロンド形式 の 5 楽章よりなり、1773 年 7 月 ザルツブルクで作曲されたといわれています。楽器編成は、2 本のホルンの他は、ヴァイオリン、ヴィオラ、バス各 1 本という特殊なもので、そのためアインシュタインは「これはオブリガート・ホルンを加えた弦楽三重奏曲以外のなにもでもない」と評している。

K. 206 は、間違っって別の番号 (1775 年に位置してしまう) を与えられましたが、1781 年作のオペラ「イドメネオ」K. 366 の一部。この CD 全集にも K. 206 としては収録されていません。

K. 207 は、ヴァイオリン協奏曲 第 1 番 変口長調です。I : Allegro moderato 変口長調 4/4 ソナタ形式、II ; Adagio 変口長調 3/4 ソナタ形式、III Presto 変口長調 2/4 ソナタ形式 の 3 楽章よりなり、ヴァイオリン独奏の他は、ヴァイオリン 2 部、ヴィオラ、バスの弦 4 部と、各 2 本のオーボエとホルンのオーケストラで演奏されます。この曲の成立時期については、自筆譜に訂正された形で 1775 年とありましたが、1977 年に再発見された自筆譜の研究の結果、1773 年作と訂正されました。これにより、この曲はモーツァルトの最初の協奏曲となりました。

K. 208 は、祝典劇「イル・レ・パストーレ (羊飼の王様)」です。1775 年 4 月 23 日前 ザルツブルクで作曲されました。メタスタージオの詩による原作をもとに編作した祝典オペラであり、モーツァルトは「オペラ」ではなく「セレナータ」と言っています。

K. 209 は、アリア「運命は恋する者に」です。1775 年 5 月 19 日 ザルツブルクで作曲されました。2 fl, 2 hr, 2 vn, va, vc, bs という編成をバックにテノールが歌います。イタリアの旅回りのオペラ劇団がザルツブルクで公演されたとき、モーツァルトは挿入曲をいくつか作っています。それは劇団員のためか、あるいは劇団と共演する地元の歌手のために書かれたものであり、
テノールのためのアリア「運命は恋する者に」(K. 209) 1775 年 5 月
テノールのためのアリア「尊み崇めて」(K. 210) 1775 年 5 月
ソプラノのためのアリア「あなたは今は忠実ね」(K. 217) 1775 年 10 月
アルトのためのアリア「私は汝を残し行く」(K. 255) 1776 年 9 月
テノールのためのアリア「わが愛しき妻クラリーチェ」(K. 256) 1776 年 9 月

があります。

K. 210 も、上述のように 1775 年 5 月ザルツブルクで作曲された、テノールのためのアリア「尊未崇めて」です。

K. 211 は、ヴァイオリン協奏曲 第 2 番 ニ長調 で、1775 年 6 月 14 日 ザルツブルクで作曲されました。管弦楽は、2 ob, 2 hr, 2 vn, va, bs という小編成で、Ⅰ：Allegro moderato ニ長調 4/4 ソナタ形式、Ⅱ：Andante ト長調 3/4 ソナタ形式、Ⅲ：Rondeau：Allegro ニ長調 3/4 ロンド形式の三楽章よりなり、演奏時間は 20 分程度になります。

(続く)